

元島英三

もとじま えいぞう
岩国市
(1899～1984)



【著作】
『小学国史物語・全4巻』（大正14・小学館）
『西遊記』（昭和2・ヨウネン社）
『よい子のお話 新日本童話選』（昭和21・大昌閣）

岩国市牛野谷町三二二一三 元島祥次 宅

ほか

「二つとない人形」
「お父さん、どうなすったの？」と、チカ子さんは、心配そうにたづねました。
すると、お父さんは、静かに、そして心から、かうおっしゃるのです。
「ねえ、チカ子や。その妙な顔の人形だね。人形やへ戻すのは、止めよう。今、お父さんは考へたのだが、その人形は、戻されたら、おそらくもう二度と、買はれることはない。それこそ、いつまでも、戸棚の隅に、ころがされたま、か、芥と一しよに、焼かれるかもしれん。顔のきれいな人形は、ほめられたり可愛がられたりするのには、顔の妙なばかりに、悲しく、さびしく暮らす、その人形は、あまりにも、かはいそうじゃないか。思ひがけなく、お父さんに買はれて、どんなにか、心の中でよろこんだらう。それが、たちまち、戻されるとしたら——人形の、うつくしい心には、変りはないんだ。ねえ、チカ子や。もう一つ、人形を買ってもいい、から、その人形は、私たち三人で、可愛がつてやらうじゃないか」
ちつと聞いてみたチカ子さんは、この時、大きく、うなづきました。その、ひとみは、しんけん、かがやきました。

『よい子のお話 新日本童話選』（昭和21 大昌閣）より

薄いガラスの神経とグラスファイバーの神経を合わせた作家だ。こころの機微に触れる感性と終生譲らぬヒューマニズムをもち続けた。それは、小さいもの、悲しいもの、貧しいものなどへの共振とその、地味な正当化、だった。

小さいもの、純粹なものへの関心は、童話や児童文学に展開された。設立直後の小学館の学年誌『小学三年（六年生）』に相次いで長編連載小説を執筆。続いて、単行本『小学国史物語・全4巻』を発売、全国の学校図書館で購読された。さらに、ヨウネン社から『西遊記』も出版された。当時、二十六誌の児童誌に執筆している。一方、居住地近くのNHK静岡放送局で子供の時間に専属ライターとして創作童話を執筆、放送。その後、東京放送局・子供の時間（バトンタッチ。戦後は、妻の故郷・岩国に帰り、『新日本童話選』などを発刊している）。

悲しいもの、孤独なものへの関心は、心中大衆文学の作家として開花した。当時、読者数一を誇る雑誌『文芸倶楽部』（博文館）に「心中物語」を投稿、幸運にも採用されて登壇した。次第に評価が高まり、当時の大衆文学誌二十誌に執筆している。弱いもの、美しいものへの関心は、女性誌に結実する。若い女性対象の雑誌『令女界』を藤村耕一と編集、宝文館から出版する。多くのペンネームを使つての苦しい発足だったが、やがて、『令女界』ブームが起きる。著名な作家や挿絵画家が競って登壇した。以後、大正期を彩る多くの女性誌に執筆することになった。

貧しいもの、屈折したものへの関心は、更生保護、社会福祉、児童福祉、社会教育活動に展開。特に、長年の保護司活動や少年刑務所の文芸指導などにより、藍綬褒章を授与された。

地元の文芸活動では、『岩国文芸』『火山群』『21世紀』などを相次いで発刊するとともに、随筆等を数多く執筆した。『21世紀』は現在百十四号に及んでいる。畢竟、慈悲・平等を穏やかに追求しながら、未完に終わった人生だったかも知れない。

（文・元島祥次）

元島英三 年譜

（提供・元島祥次）

明治32（一八九九年）	一九歳
大正7（一九一八年）	
大正9（一九二〇年）	二二歳
大正11（一九二二年）	二四歳
大正14（一九二五年）	二七歳
昭和2（一九二七年）	二八歳
昭和7（一九三二年）	三三歳
昭和18（一九四三年）	四四歳
昭和20（一九四五年）	四六歳
昭和21（一九四六年）	四七歳
昭和24（一九四九年）	五〇歳
昭和25（一九五〇年）	五一歳
昭和27（一九五二年）	五三歳
昭和43（一九六八年）	六九歳
昭和44（一九六九年）	七〇歳
昭和48（一九七三年）	七四歳
昭和58（一九八三年）	八四歳
昭和59（一九八四年）	八五歳
昭和59（一九八四年）	

2月23日、東京府本郷区追分町（現・東京都文京区）生まれ。

心中大衆文学の作家になりたいとの夢から、当時、読者数一を誇る大衆雑誌『文芸倶楽部』（博文館）に「心中物語」を投稿、幸運にも採用されて登壇。以後、大正末期まで文芸倶楽部を中心に20余の大衆誌に執筆。『文芸春秋』にも「団子坂の菊人形」「銀座の星」など執筆。

児童文学、少年少女小説に方向転換（高見順の勧めなど）。小学館の学年誌『小学三年生』『小学四年生』『小学五年生』『小学六年生』に長編連載小説を執筆。あんど玉先生とあだ名された。（小学館創設者・相賀武夫に全学年誌編集を依頼されるが、執筆協力にとどめた。）

若い女性対象の雑誌『令女界』を藤村耕一と編集、宝文館から出版。多くのペンネームを使つて執筆。やがて、『令女界』ブームが起きる。芥川龍之介、谷崎潤一郎、吉屋信子なども執筆。竹下夢二、路谷虹児、高島華宵、加藤まさる、東郷青児、岩田専太郎、中原淳一などの挿絵・口絵が人気を博した。同じ頃、高見順（当時は高間芳雄）編集の月刊誌『こども日本』にも連載執筆。その後、少年少女向けの『美談』創刊、編集、執筆。（林芙美子との縁ができる。）

小学館初の単行本『小学国史物語・全4巻』を発売。全国の学校図書館で購入。『西遊記』をヨウネン社から発刊。この頃、子供・少年少女・青年向けの26の雑誌に執筆。

NHK静岡放送局・子供の時間に専属ライターとして創作童話を執筆、放送。以後、東京放送局・子供の時間に登場。雑誌『海と船』編集・執筆。（編集長・米窪満亮 初代労働大臣）妻の故郷、岩国市へ。

『よい子のお話 新日本童話選』（大昌閣）など発刊。防長新聞・年間連載「散りしと思えば」

『岩国文芸』『岩陽文芸』『火山群』の発刊、編集、執筆をはじめ。以後、文化、社会教育、社会福祉、更生保護など多岐に渡り活動。（番号・草雨）岩国市立愛宕小学校校歌を作詞。

岩国地方文化人連盟設立（一九八四年「地方文化の会・岩国」に改称）。総合雑誌発刊、講演会、文学賞等企画。同連盟、総合誌『21世紀』発刊。以後、今日まで一一四号に至る。同連盟、国木田独歩文学碑建立。（岩国市横山）藍綬褒章受章。

3月8日、呼吸不全にて死亡。（岩国市錦病院）4月、有志・元島英三文学碑建立。（岩国市門前）（碑文）表面「人間なら 人間の顔で 暮らしたい」裏面「子供が好き 散歩が好き 岩国が好き」5月、有志・元島英三記念樹植栽。（岩国市横山独歩碑隣り。熊本産・しだれ桜）



『小学国史物語・全4巻』



「人間なら人間の顔で暮らしたい」岩国市門前町大歳神社境内の文学碑